

最近の木材乾燥技術セミナーについて

企業支援部 研究調整グループ 伊藤洋一

■はじめに

木材乾燥技術セミナーは、北海道乾燥材普及協議会が道内各地で行っていた「木材の人工乾燥技術研修会」が前身です。平成20年度からは道内各地1～3か所で開催されています（表1）。

■開催要望について

道内各地から林産試験場へ木材乾燥の技術相談に来場、あるいは電話等で連絡いただいた方々から、数年に一度くらいでも近くの町で勉強する機会を持ちたいので、セミナーを開催してもらえないかとの要望をいただくことがあります。

そこで、多くの方が参加しやすいように各種研修会や見学会と併催したり、乾燥材の品質管理や地域材利用による経済波及効果など、関連課題の講演も同時に行ったり、より多くの要望に応える形で開催しています（写真1～2）。また、講演前には、できるだけ地域の関係部署（各自治体の出先機関、関連法人など）に対して意見・要望を照会し、いただいた要望に沿った内容も含め、講演者が対応するようにしています。これまで木材の含水率と耐久性との関係性や、カラマツの木理とねじれの仕組みなどの説明を行っています。

表1 過去の木材乾燥関連の研修会・セミナー

年度	会場
18	旭川、遠軽（丸瀬布）、釧路、苫小牧、江差
19	
20	伊達、北見
21	新ひだか（静内）、函館
22	旭川 紋別（オホーツクウッド研修会と併催）
23	夕張（市営住宅見学会と併催） 紋別（オホーツクウッド研修会と併催）
24	釧路（釧路森林資源活用円卓会議と併催） 北見
25	札幌、苫小牧
26	栗山
27	北斗、帯広
28	豊富、下川（地域材利用セミナーとして開催） 北見（おでかけ道総研として開催）

※平成20年度より木材乾燥技術セミナーとして開催

また、申し込み書類に「セミナーに対する要望」欄を設け、講演内容に対する要望を事前に把握することで、当日の講演に反映するよう努めています。

セミナーの開催時間や曜日についても、参加する方の要望にできるだけ合わせるようにしています。例えば、企業等で乾燥を担当する方にとって、出勤時から午前中にかけては、乾燥装置やボイラーの動作確認、乾燥の進み具合のチェックと乾燥条件の管理など、多くの作業をこなさなくてはなりません。また、トレーラーなどへの乾燥材の積み込み・積み下ろしを行うリフトマンを兼ねる乾燥担当者も多くなり、工場を長時間離れることが難しくなってきました。



写真1 釧路森林資源活用円卓会議と併催（24年度、釧路会場）



写真2 地域材利用セミナーとして開催（28年度、豊富会場）

した。そこで、セミナーの開催時間を夕方にし、コンパクトに設定する場合があります。

■個別の要望への対応について

技術相談で、より詳しい説明を希望する方には、セミナーの後に個別対応の時間をとり、対応することになっています。

相談内容はさまざまですが、乾燥スケジュールや乾燥装置の操作について、特注の製品向けの乾燥工程について、その時に話題となっている乾燥方式についてなどが多いようです。セミナー申し込み時などに、あらかじめ相談内容をお知らせいただければ、説明資料を準備することも可能です。

質問の内容によっては、質問を受けた企業に出向き、実際に機械操作をしながら説明を行ったり、乾燥前の製材木取りや乾燥後の人工乾燥材に対して意見交換をする場合もあります。

技術相談を受ける項目の中で、質問の多いものについては、あらかじめセミナーで話す内容に含めるようにしています。例えば、押し当て式の含水率計（高周波容量式の含水率計）の使用方法について（図1）、測定するとき木材のどの面に当てるのか、材厚による影響はどのようになるのか等は、普段から質問が多く、誤りや勘違いが多く生じている項目なので、実際に測定サンプルを持ち込み、含水率計が示す測定数値の違いを確認してもらったり、参加者にいろいろなタイプの含水率計を使ってもらい、正しい操作方法をマスターしてもらうことも行っています。

■地域の要望に応えるセミナーへ

26年度は、セミナーの前に林野庁の木材産業課長にも講演いただき、林業の成長産業化や地方創生についてお話しいただきました。また、道総研で取り組んでいる戦略研究の成果や活用策について、施設見学とともに概要を説明することも行いました（写真3）。このような川上（林業）～川中（木材産業）～川下（住宅産業）で森林資源を循環させる取り組みや、地域材利用による安定的な需要創出は、林業の再生を促し、地域への経済波及効果を高めます。

木材乾燥はその一翼を担う重要な工程であり、その精度向上は製品の品質向上、需要の安定に直結します。地域の木材産業の技術力向上を通じて、公共建築物の木造化や内装の木質化など、地域材の安定供給と利用体制整備における役割を果たすべく、乾燥技術の向上に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

■今年度のセミナーについて

29年度のセミナーの開催内容等は検討中ですが、要望がありましたら、林産試験場企業支援部普及連携グループまでお寄せください。

■おわりに

セミナーでは、お話しする分野にもよりますが、専門用語を使わざるを得ないこともあります。できるだけ注釈をつけたり、平易な言葉で説明するよう心がけていますが、不明な点などありましたら講師に遠慮なく質問していただきたいと思えます。参加

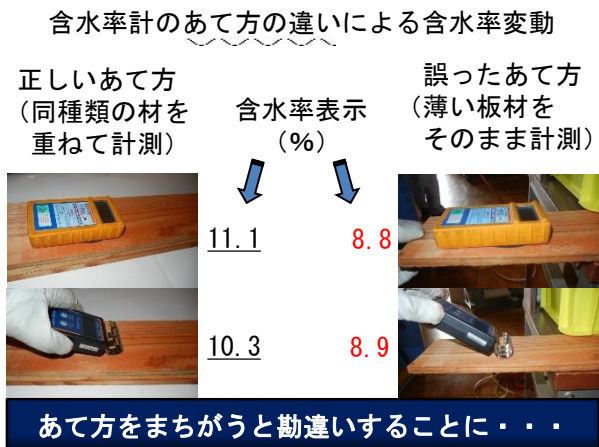


図1 含水率計の適切な使い方の説明例 (24年度、釧路会場)



写真3 セミナー時に実施した施設見学 (26年度、栗山町ドライウッド協同組合)

者に対してアンケートも実施しており、「〇〇について、わかりやすく解説してほしい」などの要望があれば、次回の講演に活かしていきますので、具体的に記載いただくとありがたいです。

また、セミナーの開催にあたり、北見工業技術セ

ンターなど各地域にある公設試験機関、各（総合）振興局、北海道木材産業協同組合連合会、北海道林産技術普及協会など多くの関係者の協力を得ております。この場をお借りして感謝の意を表します。